

2015年度
あなたのまちの海の日サポートプログラム



多様な団体による
地域の海を活用した学びの提供
(海の日サポート)

調査報告書

2015年10月7日
しまなび実行委員会

当事業の目的

本格的な人口減が進行しつつある横須賀市において、将来の地域における活力となる若い世代の人材育成は急務である。一方、子どもたちが学校以外の地域において、地域の大人から継続的に学ぶ機会は少ないのが現状であり、家庭、学校以外の第三者による学びの提供が、人材を育成する大きなカギになると考える。

そこで本事業では「無人島で、海をきっかけにして子どもたちが地域と未来を考える」ことを目的として複数のイベントを展開することにより、次の世代が働くということはどういうことか、人をおもてなしすることはどうすればいいのか、ふるさとの魅力とは何なのか、地域の魅力をどう伝えればいいのか、地域と世界はどうつながっているのか、等を考える契機とし、主に次世代を担う子どもたち(中高大学生)に向け、東京湾唯一の無人島である猿島を舞台に、未来につながる幅広いジャンルの「学び」を提供するとともに、広く「海の大切さ」や「海の日」を啓発することを目標とする。

具体的には「島の学校」と名付ける学びプログラムを実施することにより、海に囲まれた無人島という空間で、働くことや地域の良さ、国際感覚、社会的関心等を喚起する。

また、本事業は1回のみイベントとして終わらせるものではなく、子どもたちがキャリアを考え、地域を再発見し、地域の未来を望むことを喚起するには、繰り返しのアプローチが大切だと考える。よって今後、長期間に渡って実施することを前提とするほか、実施プログラムも数量ともに段階的に充実させ、なおかつ幅広い地域の人材やノウハウを結集させるべく、事業そのものを永続的に成長させていくことを目指す。

初年度はプレ企画としてスタートさせ、少しずつノウハウを蓄積させることで、やがて事業として適正なものとなるよう工夫を重ね、認知度アップの努力を続ける。

事業内容

しまなび2015～海を考える島の学校

1 猿島ワークショップ「こども未来島」

- (1) 時期: 7月20日(月祝)
- (2) 場所: 猿島
- (3) 参加者: 中高大学生 16名
- (4) 内容: 主に次世代を担う子どもたちに向け、船長やライフセーバー、海水浴場スタッフ、猿島管理人など「海に関する仕事」を調査し、その内容を「猿島新聞」としてまとめる。講師にはメディア関係者を招き、制作した新聞はデジタル化してインターネットで公開する。

2 浦賀水道シッピングウォッチング～海から世界を眺めよう

- (1) 時期: 9月23日(水祝)
- (2) 場所: 猿島および浦賀水道
- (3) 参加者: 小中高生および保護者等 19名
- (4) 内容: 猿島において、東京湾を航行するさまざまな船の種類や役割、物流の仕組み等を学んだ後、船上で実際に船舶を眺めながら専門家の解説を聞き、学ぶ。また、猿島において海の上のルールなどを知るためのワークショップを行う。

※当初予定していた「日米交流猿島デイキャンプ」および「猿島発見ムービーをつくろう」は、相応の準備をしながら、次年度以降に実施することを検討する。

※上記の企画・イベントは本来、一体で実施する予定のものであり、次年度以降も継続していくことを検討する。

しまなび実行委員会

委員長	鈴木隆裕	(株式会社トライアングル 代表取締役社長)
副委員長	佐藤弘行	(NPO法人 横須賀創造空間 理事)
委員	鈴木 守	(株式会社 JTB コーポレートセールス 法人営業横須賀支店)
委員	武口翔吾	(一般社団法人ウィルドア 代表理事)
委員	竹田和広	(一般社団法人ウィルドア 代表理事)
委員	井上美美	(株式会社横須賀バイリンガルブリッジ 代表取締役)

事業の実施状況

猿島ワークショップ「こども未来島」

7月20日(月)、新聞づくりを通して「無人島で仕事を学ぶ。生き方を学ぶ。」というテーマのもとでワークショップを開催しました。

当日は30度を超す猛暑の中にもかかわらず、三浦学苑高校、三浦臨海高校、逗葉高校、早稲田高校、慶應義塾大学などから16名の参加者がありました。

本イベントは大学生スタッフのサポートのもと、参加者が(1)学習(取材や写真のコツ)、(2)フィールドワーク(取材)、(3)製作(記事の執筆、レイアウト・写真の検討等)の3ステップで新聞制作に挑むというもの。

3チームに分かれて行動し、最終的には環境・文化、観光、経済・仕事とそれぞれの切り口で「猿島新聞」を3面作ることができました。

ミッションを通して、海・猿島・仕事を捉えなおす

今回の参加者に与えたミッションは「猿島のPR」「海の日を盛り上げる、海に関する情報の発信」の2点。普段はレジャースポットとしてみている海や猿島を、観光者視点ではなく「記者」としての視点で捉えなおすことを狙いました。

結果、「潮の流れは猿島の海岸のカタチを変えるんだ」「船長の仕事ってこういうもんなんだ」など参加者には、新たな視点での気づきがあったようです。アンケートでも、海について知る機会があったかという質問に対して、約90%が「とてもあった」「たびたびあった」と回答。海の不思議、海と猿島の生活とのつながりなどを感じることができたようです。

横須賀・猿島の資源が結集したからこそ出来た、学びの島・猿島

今回、タウンニュース横須賀版・安池編集長、横須賀経済新聞・亀崎編集長と地元メディアの編集長を担うお二人にレクチャーやアドバイスなどご協力いただいたほか、猿島を管理している(株)トライアングルの皆様、NPO法人横須賀創造空間など横須賀・猿島に関わる多くの方々が集結した結果、開催に至りました。

猿島という自然に恵まれ、歴史もある「場所」と、そこで働く「人」。この2つの地域資源を活かすことができたからこそ、短い時間にもかかわらず参加者は様々な発見をし、広い学びを得ることができたことと評価しております。

作成した「猿島新聞」は今後、海の日・猿島の広報のためにインターネット上での配信に加え様々な場所で配布・設置される予定です。「新聞」という媒体を最大限活かし、イベントで完結するのではなく、成果物を活用して今後の展開につなげていきたいと考えています。



猿島新聞

海の日記念特別号

発行責任者：しまなび実行委員会（事務局Tel.046-897-5035）
 企画・運営：一般社団法人ウィルドア
 編集長：内藤竜哉
 編集メンバー：前川愛理、高橋佑花、中川貴仁、其原修平、五十塚唯、大島泰一
 一読：横須賀市、横須賀市教育委員会、横須賀集客促進実行委員会
 ホームページ：http://shimanavi.jp

無人島から出るゴミ

猿島のゴミはどのようにして処理されているのか。ゴミ置き場で働くスタッフに聞いてみると、「BBQで出たゴミはここに集まっています。7月19日（日）には2000人来て、1400袋のゴミが出ました」と話してくれました。一番ゴミが出そうなオアシスのキッチンスタッフも、ピーチクリンという

要塞をカモフラージュ 猿島に植物をうえた理由

猿島といえば海水浴やBBQのイメージがあるが、自然がそのまま残っている。植物の種類がたいへん豊かな島でもある。猿島に植物が育ちだした時期は、戦争の頃。軍事施設が敵に見つからないよう、カモフラージュするために日本軍が植物を植えたためだ。そして猿島にはアシタバやフキなど約350種類の植物が育っている。その全ては常緑樹



冬でも緑が絶えない猿島の自然

取り組みもしており、海岸に落ちてくるゴミを拾う活動をしているそうだ。（文・前川）

である。冬になり木が枯れてしまいうと敵に見つかりしやうで、冬でも枯れない常緑樹を植えたそう。冬に猿島に来る観光客は夏場比べて少ない。しかし、猿島には冬になっても木々が枯れない夏場と同様の緑が見られるなど、冬ならではの魅力がある。これらの自然は大切にしていきたい。（文・内藤）

無人島の水はどこから？

猿島は無人島といえども、毎日多くの観光客が来る。多い時で2000人ほど来ることもある。そんな島に、なにも水がない。見るのに水道やガスは見当たらない。猿島には多くの観光客に賑わうレスランがあり、その中には本格的なおいしい料理が楽しめる。では、そのレスランで使う水やガスなどはどうしているのだろうか？

島の中の秘密

猿島には、塁道（るいどう）と呼ばれる外敵の攻撃を防ぐための作られた道がある。幅は約4m50cm、長さは約9mにもなる。しかも空から見て、その道が分かることはない。なぜなら、草木がたくさん生えている場所にあるからだ。

波の力で変わった地形

砂浜が小さくなった！波の力で変わった地形。海岸に貝殻がたまっていく。猿島は20年前と今では海岸の広さが違う。これは管理全般を担う水上功さんに聞いた。食べ終わった貝殻を捨てているのが原因で、今ではそれが出来なくなっている。その原因は、潮流の変化によるものだ。うだ。（文・前川）

た兵舎跡の中に入ることが出来た。兵舎の中は思ったよりも広く、約30畳分の広さがあった。この兵舎は明治14年、15年の電気の無い時代に作られたもので、レンガと漆喰（しつくい）で作られている。兵舎には小窓や空気が通る穴がいくつもあった。兵舎の中はとっても涼しく、夏は過ごしやすいく、冬は結構寒かった。これは結構寒かった。これは結構寒かった。（文・高橋）

シップウォッチング 8月上旬予約開始

東京湾から世界を見てみよう！

参加対象者：小中高生及び保護者の方
 参加料金：大人3000円 小中高生1500円
 予約サイト：http://shimanavi.jp (8月上旬予約開始)
 主催：しまなび実行委員会
 後援：横須賀市、横須賀市教育委員会、横須賀集客促進実行委員会

猿島新聞

海の日記念特別号

誰でもいつでも行ける島「猿島」 釣りもBBQも自然散策も！

猿島の島に残る明治の遺産

東京湾の隅、九十九島にある猿島。昔ながらの自然が残り、釣りやBBQ、自然散策が楽しめる。誰でもいつでも行ける島「猿島」。釣りもBBQも自然散策も！

猿島も釣りも初心者でも、楽しいです！

意外と近い自然島 猿島

「猿島も釣りも初心者でも、楽しいです！」意外と近い自然島 猿島。釣りもBBQも自然散策も！

シップウォッチング 8月上旬予約開始

1回目 8月22日 9:00発 11:00発
 2回目 8月29日 9:00発



猿島新聞

海の日記念特別号

海の仕事、海の男

無事故継続中の秘訣

「守りびとの目」が光る猿島の海。無事故継続中の秘訣。海の男の活躍の場。

シップウォッチング 8月上旬予約開始

東京湾から世界を見てみよう！

参加対象者：小中高生及び保護者の方
 参加料金：大人3000円 小中高生1500円
 予約サイト：http://shimanavi.jp (8月上旬予約開始)
 主催：しまなび実行委員会
 後援：横須賀市、横須賀市教育委員会、横須賀集客促進実行委員会

浦賀水道シップウォッチング～海から世界を眺めよう

本事業は当初、8月23日(日)に2便、そして8月29日(土)に2便の合計4便を運航する予定でした。

しかし、両日ともに台風が接近し、海上はとても波が高い状況。やむを得ず中止となってしまったため、9月23日(火)にトライアルとして1便を運航することになりました。

当日は快晴で、波は穏やか。祝日とはいえ火曜日だったためか、浦賀水道を航行する船舶も多く、絶好のシップウォッチング日和でした。

中止になった回の予約者も含め、19名が参加してのトライアルクルーズとなりました。

海の上の基本ルールも解説

最初に船長から挨拶があり、加えて今回の運航に使われる「シーフレンド3」(トライアングル所属)の操縦やスピードなどについて説明がありました。さらに、「自船の位置はどうやって分かるのか?」「どういうことに気を付けて操縦しているのか?」などの話が。参加者からはしきりに質問が飛び、子どもたちは初めて見る船舶用GPS画面に興味津々でした。

そして、いよいよ出航。「記念艦みかさ」の真横にある三笠棧橋を出ると、まっすぐに東へ舵を取り、浦賀水道へ向かいます。

解説を担当した「観音崎フィールドレンジャー」からは、世界有数の船舶航行数を誇る浦賀水道はどういう航路なのか、また船舶は右側通行で、沖に浮かんでいるブイの色にも意味がある、などといった海のルールについての話がありました。

すると、進行方向右手からは灰色の大きな船が近づいてきます。よく見ると、海上自衛隊の大型輸送艦「しもきた」。さまざまな災害救援でも活躍する全長178mの大きな艦船で、横須賀港の自衛隊基地へ向かっているようだ、などという解説の中、「シーフレンド3」はこの船の後ろ側を通ること。間近に見る自衛艦に、参加者も大興奮でした。

無人島に上陸し、ワークショップを開催

「浦賀水道を横切るのは、高速道路を横断するようなもの」という解説を聞きながら、船は浦賀水道を直角に直進。すると、前方には1914年に完成し、第二次世界大戦中まで軍事施設として使われていた「第二海堡」が見えてきました。この人工島の役割や歴史を聞きながら、普段は一般の人が行くことができない貴重な施設の周りをめぐります。

その後は浦賀水道を北に向かい、追浜と呼ばれるエリアへ。この間には、大型の貨物船やタンカー、そしてLNG船から漁船、小型ヨットまで、実に多くの船を見ることができました。船が見えると、船内では時に模型を使ったガイドによる解説があり、参加者はその話を聞きながら興味深く窓外を見たり、写真を撮っていました。

出航からおよそ1時間。船は東京湾に浮かぶ無人島・猿島に着岸しました。



ここから島内にある多目的ホールに移動し、およそ45分間のワークショップが行われました。ここでは、プロジェクターを使って海のルールや船の種類、国際信号旗の意味などの説明がありました。また、インターネットで現在航行している船の種類や速度、方向などが分かるということも実際の画面を使って説明され、参加者からはしきりに質問が出ていました。

合計2時間あまりのプログラムとなった今回のシップウォッチングクルーズ。

参加者からは「とても分かりやすかった」「大きな船が航行しているのを間近に見られて良かった」「海に細かいルールがあったのを知ることができて良かった」などと感想がありました。



「しまナビ」Webサイト <http://shimanavi.jp/>

「こども未来島」および「浦賀水道シップウォッチング」の様子を収めた動画は、上記Webサイトでご覧いただけます。